

1. 昔々、旧約聖書の時代のお話しです。イスラエルの国は、ペリシテという国と戦っていました。そのペリシテの国には、ゴリアテという大きな男がいたのです！

ゴリアテ「うわっはっはっ！ おい、イスラエルの越し抜けども、俺様と戦うヤツは誰もいないのか？ 誰でもいいぞ、俺様と勝負しようじゃないか。がっはっはっ、誰もいないのか？ 弱虫どもめがっ！」

こんなにバカにされても、この巨人ゴリアテと戦おうという勇気のある人は誰もいません。イスラエルの兵隊たちは、しっぽをまいて逃げていくしかありませんでした。

2. それを偶然見てしまったのが、ダビデ少年でした。ダビデ少年はやがてイスラエルの王様になる人物なのですが、この時はただの羊飼いの少年です。でも、ダビデ少年は神様を信じる勇気ある子供でした。弱々しいイスラエルの兵隊たちを前にして、ダビデ少年はこんなことを言ったのです。

ダビデ「あんな男がなんだっていうんですか！ 私たちには神様がいるのに、それをバカにするなんて、なんてとんでもないヤツなんだっ！」

3. それを聞いたダビデ少年のお兄さんは、怒ったこと怒ったこと！

兄さん「こらっ、ダビデ！ 生意気なことを言うんじゃないっ!! お前は羊の番をしていればいいんだっ。小さいお前にいったい何が出来るといふんだ。だいたい、ここは子供の来るところなんかじゃないぞ！ おい、うぬぼれるのも、いいかげんにしろっ!!」

ところが、勇気あるダビデ少年のことが、王様の耳にはいったのです。そしてダビデ少年は王様に呼ばれました。

4. ダビデ「王様、安心してください。ボクが行って、あの巨人ゴリアテを倒しますっ！」

王様 「いや、あの、その・・・お前の気持ちは嬉しいけども、いくらなんでも、そりゃ無理ってものじゃ。」

ダビデ「王様、そんなことはありません。ボクは羊飼いです。いつだって、恐ろしい敵から羊たちを守っているのです。凶暴なライオンや熊を倒したことだってあります！」

5. 王様 「それはお前、可愛いライオンちゃんとか、パンダちゃんのようなものだったんじゃないの？」

ダビデ「王様、冗談を言っている場合ですかっ！ 神様がボクを守ってくださるから、大丈夫です!!」

・・・その言葉を聞いて王様は、ダビデを戦いにおくことに決めました。

6. そして王様は、自分の鎧(よろい)や兜(かぶと)や剣(つるぎ)を持たせましたが、大きすぎるし、重すぎるし、そんなものをダビデは着たことがありませんから、やっぱりやめました。

7. こうしてダビデ少年は巨人ゴリアテの前に勇敢にもそのままの格好でいどんでいったわけですが、さて、ダビデ少年はいったいどうなるのでしょうか・・・？
次の4つの中から、正しい答えを選んでくださいね。

8. ①「やっぱし負けた」 巨人ゴリアテに踏んづけられて、あっさりと負けちゃった。

9. ②「強い味方をいっぱい連れてきた」 地球を守る正義の味方たちを連れてきたので、勝つことができた。

10. ③「かわいい女の子たちを連れてきてメロメロにした」 メロメロにして勝っちゃった。

11. ④「石を投げてゴリアテを倒した」 川岸から五つの石を拾ってきて、それを投げて勝った。

12. さて、正解はどれでしょう？

①やっぱし負けた ②正義の味方を連れてきた ③メロメロにした ④石を投げて勝った

13. はい、正解は④でした。ダビデ少年は石を投げただけで巨人ゴリアテに勝利したんだね！

14. ダビデ少年は川岸から拾ってきた石を、石を投げる道具を使って巨人ゴリアテに向かって投げつけました！

15. その石は巨人ゴリアテの額(ひたい)に見事に命中！あの大きな体が「どどおーん！」と倒れてしまったのです。

16. 「おまえはつるぎと、やりと、投げやりを持って、わたしに向かってくるが、わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいどんだ、イスラエルの軍の神の名によって、おまえに立ち向かう。」Iサムエル17:45

ダビデ少年は自分の出来ること、つまり石を投げるということをしました。そしてあとは神様を信じて、お任せして、大きな敵に向かって行って勝利したのです。私たちにも自分の出来ることがありますよ。神様を信じて、自分のできることを精一杯がんばって、そして前に向かって進んでいきましょう。 おしまい。